

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：まちづくりと公共交通の再生（2）	
日付： 6月 13日（土）曜日，セッション時間：16:30 ～ 17:30	
オーガナイザー・司会者名（所属）：土井勉（神戸国際大学）	
討議内容	<p>セッション全体：</p> <p>セッション企画主旨は（1）に記述の通り。</p> <p>公共交通利用促進を行うためには，様々な情報提供が必要であるが，ここでは主に公共交通利用に関するマップによる情報提供と，MM についての研究発表が行われた。</p> <p>MM については，自動車から公共交通への転換を進めるためには，荷物があるとか残業などの傷害を解消することが望まれる。そうした対策とセットが望ましいのではないか。</p> <p>この点については，構造的方略と心理的方略のセットが必要で，荷物などは，構造的な対応として，どんなサービスが提供できるのかを考える必要がある。</p>
	<p>（154）井上 智（名古屋市）：環境にやさしいライフスタイル-交通エコライフ-の普及への取り組み</p> <p>・市が地域の人たちと公共交通利用マップ作成を行い，水平展開することに関する経験と課題について</p> <p>・Q:交通事業者との連携は？</p> <p>・A:既に交通局とは情報交換を行っているが，前面に出ると住民からの要望が噴出することがある。</p> <p>・Q:マップ作成の予算は行政で行う以外の方法もあるのではないか</p> <p>・A:市民主体が最も望ましいが，現状では，そうならない。</p>
	<p>（155）田中孝司（神戸市）：神戸市営地下鉄沿線地域を対象とした MM の取り組み</p> <p>・地下鉄沿線の工業団地や住宅に対する MM の実施について。</p> <p>・Q:今後の継続的な展開は？</p> <p>・A:沿線にある別の工業団地での TFP の実施と，過年度の取り組みで課題となっているバスの増発，料金制度などの改善に取り組んでいきたい。</p>
	<p>（156）本田 豊（兵庫県）：都市圏における広域バスマップの意義と課題</p> <p>・阪神都市圏では，多数のバス事業者，鉄道事業者が存在している。これらの路線情報を一元的に紹介するバスマップの作成と継続的な改訂・発行に関する取り組みと課題について。</p> <p>・Q:継続するための仕組み・予算措置について？</p> <p>・A:立ち上げ時は国のモデル事業。それ以降は，交通事業者と行政がお金を出し合っている。そのためには，バスマップの必要性を広く認知してもらうために，マップに関する広報が重要。ここで認知が拡大するということは，ニーズがあることにつながる。ニーズがあれば，各関係者も費用を出す大義名分ができる。</p>

	<p>(157) 原 理史 (名古屋産業大学大学院): 公共交通利用促進キャンペーンにおける環境配慮意識の通勤行動への影響に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none">・チラシ配布による通勤MMの活動に関する効果に関する研究.・Q:チラシ配布の有無の差の検定で, 有意差がないということは, 配布効果が見られたとは言えないということにならないか?・A:符号が全て正なので, 効果がないと否定する程ではないと考えられる. 他の分析方法も考えてみたい.

※発表件数に応じて適宜追加してください.